

## 査 読 ・ 抄 録 原 稿 用 紙

発表演題名	救急隊の現場滞在時間に対して、消防隊の応援出動が与える影響について
<p>【目的】平成3年に救急救命士法が施行され、その後、更なる救命処置範囲が拡大されているが、この根底には、その傷病者に適応する医療機関に速やかに搬送することが必須であり、その対策の一環として、マンパワーを確保すべき、早期に消防隊を要請する判断が肝要である。当方では、高速道路上や航空救急など、二次的災害防止等を図る場合には、救急隊と消防隊が同時出動している一方で、通常の救急出動における消防隊の応援要請は、救急隊員からの要請判断により消防隊を要請しているのが現状である。今回は、この救急隊員が行う消防隊の応援要請が救急隊の現場滞在時間に、どのような影響を与えているかを明らかにし、更なる円滑な要請判断を如何にすべきかを検討する。</p> <p>【対象と方法】</p> <p>(1) 対象症例 救急隊が胸骨圧迫を施行しつつ医療機関に搬送したもの</p> <p>(2) 対象期間 平成20年1月1日から平成22年6月30日まで</p> <p>(3) 方 法 対象症例から以下の条件で要約統計量を求め、救急隊の現場滞在時間への影響を検討する。</p> <p>ア.全対象症例を、応援隊ありと応援隊なしに分類して比較する。</p> <p>イ.全対象症例のうち時間がかかる要因があった案件を抽出し、応援隊ありと応援隊なしに分類して比較する。なお、時間がかかる要因は、データで確認できる下記のものとする。</p> <p>①発生場所に「502号室」等具体的な記載があり、3階以上が間違いのないもの。</p> <p>②特定行為のうち、気管挿管、静脈路確保を完了したもの。</p> <p>(ア) 救急隊と消防隊の現場到着時間差</p> <p>(イ) 応援要請の時期</p> <p>【結果】</p> <p>(1) 対象症例の全て、時間が掛かる要因があった症例ともに、応援隊ありは、現場滞在時間が長くなる。</p> <p>(2) 救急隊と消防隊の現場到着時間差が大きくなるほど、現場滞在時間が長くなる。</p> <p>(3) 消防隊が応援出動した症例110件のうち、救急隊が現場到着してから5分以上経過後に消防隊が出動したものが半数を超える。</p> <p>【考察】現状では、応援要請すると判断するまでに時間を要しているため、救急隊と消防隊の現場到着時間に差が大きく、消防隊を待っている時間が発生していると考えられる。今後、指令管制員に対し、救急隊と消防隊の同時出動下命に関するマニュアル化を図ることが救急隊の現場滞在時間の更なる短縮に繋がると考察する。</p>	

※下記の申し込みコードは入力しないでください。

※申込コード	«No»
--------	------